

# 田坂広志の風を語る

「地方創生」に注目が集まる時代。しかし、真に「豊かで活力ある地域」を実現したいのであれば、まず、経済活性化の戦略を変えるべきであろう。その戦略とは、地域において、「マネタリー経済」だけでなく、「ボランティア経済」を活性化させること、知識、関係、信頼、評判、文化などの「目に見えない資本」を創出することであろう。

## TOPIC

### 「目に見えない経済と資本」が真に地方を豊かにする

#### 「豊かで活力ある地域」とは？

加藤 いま、政府は「地方創生」を掲げ、豊かで活力ある地域を実現することに政策的な重点を置いていますが、そうした政策を進めるためには、何が必要なのでしょう？

田坂 そのために、政府として行うべき施策は多々ありますが、その前に深く問われるべきことがあります。それは、そもそも、国や地域の「豊かさ」とは何か、ということですね。

加藤 「豊かさとは何か」ですか？

田坂 そうです。現在、政府や経済学者は、国や地域の「豊かさ」というものを、GDPなどの経済指標で測っていますが、これはあくまでも、「貨幣」（お金）で測れる「豊かさ」です。しかし、実は、国や地域やコミュニティには、「貨幣」で測れない「豊かさ」があるのです。言葉を替えれば、「目に見えない豊かさ」というものがあるのです。

加藤 「目に見えない豊かさ」、それは、どのようなものでしょうか？

田坂 端的に言えば、国や地域やコミュニティには、「貨幣経済」や「貨幣資本」によって測られる「目に見えない豊かさ」というものがあるのです。これは、「目に見えない豊かさ」というものがあるのです。

#### 見失われてきた「ボランティア経済」

田坂 「非貨幣経済」として最も重視すべきは、「ボランティア経済」です。これは、「貨幣経済」（マネタリー経済）が「表の経済」であるならば、「陰の経済」と呼ぶべきものであり、人類の歴史始まって以来、一貫して社会を支えてきた重要な経済活動です。

加藤 人類の歴史始まって以来、社会を支えてきたのですか……？

田坂 そうです。現代の経済学では、あたかも「貨幣経済」だけが経済であるかのように語られていますが、実は、文化人類学的に見るならば、「貨幣」が生まれ、「貨幣経済」が始まる前は、物々交換を中心とした「交換経済」が主流であり、さらにその前は、善意や好意で相手に価値あるものを贈る「贈与経済」と呼ばれるものが主流だったのです。この「贈与経済」が、現在では「ボランティア経済」と呼ばれるものです。

加藤 ただ、その「贈与経済」は、歴史的には、すでに消えてしまった過去の経済なのでしょうか……？

田坂 いえ、先ほど申し上げたように、この「贈与経済」は「ボランティア経済」は、人類の歴史を通じて、一貫して社会を支えてきています。

例えば、家庭での、家事、育児、家庭内教育、老人介護などの活動、地域での、自治、防災、環境保全などの活動は、誰もそれによってお金という対価を得ていない「ボランティア経済」であり、いつの時代にも一貫して社会を支えてきた経済です。だから、もし仮に、これらの「陰の経済」が消えて無くなれば、ただちに、「貨幣経済」＝「マネタリー経済」も機能しなくなります。

加藤 なるほど……。では、現在の「マネタリー経済」を中心の支えている企業活動などはどうでしょうか？

#### 地域が疲弊していくもう一つの理由

田坂 いや、企業活動においても、この「ボランティア経済」が大きな役割を果たしています。例えば、省エネ機器や自然エネルギーシステムの開発に、「豊食を忘れて」取り組むエンジニアは、単に「給料をもらっているわけではありません。この技術とシステムが、良き社会を実現する」と信じ、その志と使命感で頑張っているのです。これは、明らかに「ボランティア経済の精神」が企業活動を支えている好例です。

こうした志や使命感が企業を動かしている事例は、部下を献身的に育てる上司、顧客に深く共感して応対

#### 「志と使命感」を持つことが出発点

田坂 第三は、自治体が、NPOや社会起業家、地域の中小企業、そして地域の人々が、揃って参加できる「地域起（し）プロジェクト」を創出することです。なぜなら、こうした志と使命感を持ったプロジェクトの周りには、自然に「目に見えない資本」が集まっていくからです。

加藤 なるほど、自治体は、「予算が足りない」と嘆く前に、そうした「目に見えない資本」をこそ、生み出し、活用するべきなのですね。また、その出発点は、「地方自立」の高志と使命感を持つことなのですね。

有り難うございました。

## RECOMMENDED BOOKS

田坂氏は、今回のテーマである「目に見えない資本」については、自著で詳細に語っているので、興味ある方はこちらも是非参照いただきたい。

### 『目に見えない資本主義』 （東洋経済新報社刊）

資本主義の進化に伴って、「日本型経営」と「日本型資本主義」が新たな価値を伴って復活してくる——「資本主義の進化」のビジョンを従来の経済学の視野を超えた深い洞察力で語った、知的刺激に満ちた一冊。

### Invisible Capitalism 目に見えない資本主義

田坂広志  
経済学者が語らない資本主義の未来  
著：田坂広志  
発行：東洋経済新報社

#### 地域で失われた「目に見えない資本」

加藤 その「ボランティア経済」の大切さは理解しましたが、では、この「貨幣」で測れない「経済活動」を、どう評価すればよいのでしょうか？

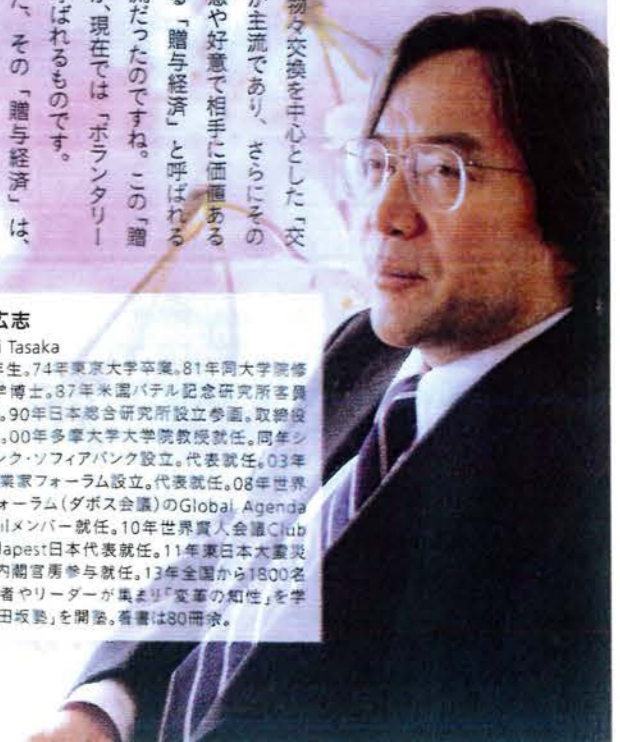
田坂 たしかに、「ボランティア経済」は「貨幣資本」が流通する経済ではありませんが、その尺度によっては測れませんが、実は、この経済においては、いくつもの「非貨幣資本」が流通しているのです。

従って、「ボランティア経済」を評

#### 豊かで活力ある地域への真の戦略

加藤 では、どうすれば、全国の地

インタビュー 加藤晶子  
Akiko Kato  
（株）リクルート・キャリアを経て、キャリア・カウンセラーとして独立。20～30代の学生や社会人に1000人規模でのキャリア・カウンセリングを行う中で、働くことやキャリアについて人生の早期に考えることの重要性を痛感し、小学生向けのキャリア教育スクール、キッズイノベーション（Kids Innovation）を立ち上げる。最近では、この教育事業の代表を務める傍ら、子ども達の未来を見据え、社会や時代がどこに向かっているのか、様々な業種のインタビューを行っている。



田坂広志  
Hiroshi Tasaka  
1951年生。74年東京大学卒業。81年同大大学院修了。工学博士。87年米国バチル記念研究所客員研究員。90年日本総合研究所設立参画。取締役等歴任。00年多摩大学大学院教授就任。同年シグタック・ソフィアバンク設立。代表就任。03年社会起業家フォーラム設立。代表就任。08年世界経済フォーラム（ダボス会議）のGlobal Agenda Councilメンバー就任。10年世界実人会議Club of Budapest日本代表就任。11年東日本大震災に伴い内閣官房参加就任。13年全国から1800名の経営者やリーダーが集まり「変革の知性」を学ぶ場、「田坂塾」を開塾。著書は30冊余。